# 平成24年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成24年２月10日

| | | | |
|---|---|---|---|
| 上場会社名 | アドアーズ株式会社 | | 上場取引所　大 |
| コード番号 | 4712 | | ＵＲＬ　http://www.adores.co.jp/ |
| 代表者 | （役職名）代表取締役会長 | （氏名）藤澤　信義 | |
| 問合せ先責任者 | （役職名）取締役 | （氏名）沖　　聡 | （ＴＥＬ）　03（5623）1115 |
| 四半期報告書提出予定日 | 平成24年２月13日 | | 配当支払開始予定日　－ |

四半期決算補足説明資料作成の有無：　無
四半期決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成24年３月期第３四半期の業績（平成23年４月１日～平成23年12月31日）

（１）経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 24年３月期第３四半期 | 17,127 | △9.1 | 954 | 121.4 | 880 | 211.7 | 938 | 1,145.5 |
| 23年３月期第３四半期 | 18,843 | △7.4 | 431 | △56.3 | 282 | △65.9 | 75 | △81.6 |

| | １株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後１株当たり四半期純利益 |
|---|---|---|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年３月期第３四半期 | 8.09 | － |
| 23年３月期第３四半期 | 0.71 | － |

（２）財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 24年３月期第３四半期 | 21,827 | 9,276 | 42.5 |
| 23年３月期 | 24,629 | 7,591 | 30.8 |

（参考）自己資本　24年３月期第３四半期　9,276百万円　23年３月期　7,591百万円

２．配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 第１四半期末 | 第２四半期末 | 第３四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年３月期 | － | 0.00 | － | 0.00 | 0.00 |
| 24年３月期 | － | 0.00 | － | | |
| 24年３月期（予想） | | | | － | － |

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無
※平成24年３月期（予想）の配当は未定となっております。

３．平成24年３月期の業績予想（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | １株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 23,600 | △9.0 | 1,050 | 298.2 | 900 | 1,100.3 | 900 | － | 7.69 |

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

４．その他

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無

② ①以外の会計方針の変更 ： 無

③ 会計上の見積りの変更 ： 無

④ 修正再表示 ： 無

（３）発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 24年３月期３Ｑ | 124,557,592株 | 23年３月期 | 109,557,592株 |
| ② 期末自己株式数 | 24年３月期３Ｑ | 4,019,592株 | 23年３月期 | 4,019,592株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 24年３月期３Ｑ | 116,038,000株 | 23年３月期３Ｑ | 105,539,249株 |

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きを実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2.平成23年６月28日を割当日とした1,500万株の第三者割当による新株式を発行しております。

○添付資料の目次


１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 1
（１）経営成績に関する定性的情報 …… 1
（２）財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 4
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．四半期財務諸表 …… 5
（１）四半期貸借対照表 …… 5
（２）四半期損益計算書 …… 8
第３四半期累計期間 …… 8
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（４）セグメント情報等 …… 9
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 10
（６）重要な後発事象 …… 10

## １．当四半期決算に関する定性的情報

### （１）経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災に伴う経済活動の低下から一部回復の兆しは見えつつあるものの、長期化する歴史的な円高やソブリンリスクが内在する欧州の金融不安等の影響を受け、厳しい状況で推移致しました。

当社の属するアミューズメント施設運営事業におきましても、震災直後の深刻な自粛ムードは和らぎ、安・近・短レジャーの代表格として支持を集めつつあるものの、国内経済全体に淀む先行きの不透明感は個人消費マインドに大きく影を落としたままであり、全体を通して依然厳しい状況で推移しております。

このような状況下、5月の藤澤信義を新代表とした新経営体制の発足以後、財務体質の健全化を最重要課題と位置づけ、この厳しい環境下を耐え抜きＶ字回復を果たすことのできる強固な経営体制への転換を図っております。この財務戦略の指標のひとつである有利子負債残高につきましては、期初残高10,175百万円から7,216百万円（本第3四半期末時点）と、2,958百万円の圧縮を致しました。

事業戦略面におきましても、主力のアミューズメント施設運営事業におきましては、幅広い顧客層に目を向けた各種集客施策と、地域密着型の個店毎の顧客層にあわせた肌理細かいマシンの厳選投資やサービスの充実を図る傍ら、前期に損失計上した13ヵ店の不採算店の閉店処理や節電対応を含めた運営体制の強化等、徹底した収益率の向上を目指しました。また、第二の柱である設計・施工事業、不動産事業におきましても、限られた施工案件を巡る厳しい競争市況が続く中で継続的な受注を獲得したほか、4月より開始したカプセル自販機の設置・運営事業におきましても、新規事業ならではの課題をひとつひとつ確実に解決しながらその設置台数を着実に伸ばしております。

さらに継続的な利益を確保できる収益体質への転換に向け、各事業部の徹底した効率運営・コスト削減とともに、各種福利厚生の見直しなどによる労務費の効率化や、本社施設や倉庫の解約等による固定費の削減など、管理部門においても徹底した合理化策を推進致しました（前年同期間の販売管理費比△298百万円）。

この結果、当第3四半期累計期間における業績は、売上高は17,127百万円（前年同四半期比1,715百万円減・△9.1%）と減収とはなりましたが、営業利益は954百万円（同523百万円増・＋121.4%）と増益を確保しております。更に、経常利益におきましては有利子負債の圧縮に伴う支払利息負担の減少も重なった結果、880百万円（同598百万円増・＋211.7%）を確保した上、第3四半期累計純利益におきましても938百万円（同863百万円増・＋1145.5%）と大幅な増益となりました。

セグメント別の業績等の概要については以下のとおりであります。

【アミューズメント施設運営事業】

| | 平成23年3月期第3四半期（実績） | 平成24年3月期第3四半期（実績） | 前第3四半期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 14,494百万円 | 13,806百万円 | △4.7% |
| セグメント利益 | 529百万円 | 1,276百万円 | 140.9% |

主力であるアミューズメント施設運営事業におきましては、消費マインドの低迷の影響が続く中、これまで継続して推進してきた新規顧客層の獲得のみならず、節電をはじめとした様々な社会要請に対応しながら収益を確保できる運営体制の確立を目指しました。この課題に取り組むべく、若手の抜擢登用を含む、エリアマネージャー体制の変更を図った他、本社組織の見直しを図り、多角的な視野で物事を捉え、柔軟かつスピーディに対応できる体制への転換を図っております。営業施策面におきましても、継続して集客施策に重点を置き、地域性をふまえたマシンラインナップの充実や、業務提携先の株式会社ネクストジャパンホールディングスグループとのオリジナル景品の開発・研究による商品力の差別化を行っております。

第3四半期におきましては、10月には「アドアーズ サンズマカオ店」のグランドオープン記念と題した全店規模のメダルゲームの販促イベントを開催した他、11月からは当社メダルコアユーザーにとって最も注目度の高い全店合同イベントである『メダルファンタジアカップ（各店選抜によるジャックポット王座決定戦）』の予選・本選の開催、年末にかけては多くのメダル会員顧客からの期待度の高いダイレクトメールの発送等、メダルジャンルの新規顧客の獲得やリピーターの獲得強化に注力致しました。

また、将来の重要差別化要素として掲げております接客サービス力の強化につきましても、当社スタッフ自らが対象となる「第5回接客コンテスト」の中間予選・プロモーションを各店にて開催するなど、当社をご愛顧頂いているお客様と一体となった企画・運営のもと、他余暇産業にも太刀打ちできるサービス力の強化を目指しました。

こうした各種イベントによる、ゲームマシンのみに頼らない当社ならではの提案力を活かした施策を展開する傍ら、不採算店の閉店に伴い発生する余剰マシンは効率的な投資に資するチェーンメリットにより最大限に有効活用しております。

一方、昨年、爆発的な人気となった一部の景品に後押しされ、大きく伸長してきたプライズジャンルにつきましては、当該景品の人気の一巡感から昨年同四半期ベースで大きく落ち込んだほか、閉店による売上の減少もあいまって、全体としての売上高につきましては13,806百万円（前年同四半期比688百万円減・前年同四半期比△4.7%）と減収となりました。

なお、利益面におきましては前述の各種コスト削減・合理化策、不要資産の減損・評価減に伴う償却負担の減少に加え、新規マシンへの投資について地域毎の顧客ニーズの分析のもと厳選かつ効率的に行ったことなどから、セグメント利益1,276百万円（同746百万円増・同＋140.9%）と増益を確保しております。

●既存店売上前年比推移

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 102.0% | 98.0% | 101.4% | 98.8% | 96.8% | 101.2% | 99.5% | 97.1% | 95.3% |

当第3四半期会計期間につきましては、アドアーズ川口栄町店、アドアーズ上野南口店、アドアーズ銀座addict店の3ヵ店を閉店しております。

【設計・施工事業】

| | 平成23年3月期第3四半期（実績） | 平成24年3月期第3四半期（実績） | 前第3四半期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 3,371百万円 | 2,636百万円 | △21.8% |
| セグメント利益 | 266百万円 | 127百万円 | △52.1% |

設計・施工事業につきましては、上半期複数受注した中・大型ホールの内外装工事の着工を進める中、各種飲食施設や娯楽・健康施設などを中心とした複数の新規案件の獲得は果たせたものの、計画からは下回る受注額に留まりました。また、新規案件ならびに競争激化によって利益率も伸び悩み、売上2,636百万円（前年同四半期比△21.8%）、セグメント利益127百万円（同△52.1%）と減収減益となりました。

【レンタル事業】

| | 平成23年3月期第3四半期（実績） | 平成24年3月期第3四半期（実績） | 前第3四半期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 194百万円 | 26百万円 | △86.2% |
| セグメント利益 | 33百万円 | 5百万円 | △84.2% |

レンタル事業におきましては、過年度に締結しているパチスロ機周辺機器レンタル契約の多くが期日満了し、一部の更新契約を管理する事業へと収束しております。なお更新の際はレンタル商品の買取を提案する等、計画的な事業縮小に努めておりますが、これらを含む、事業進捗について概ね計画通りに推移した結果、売上高26百万円（前年同四半期比△86.2%）、セグメント利益5百万円（同△84.2%）となりました。

【不動産事業】

| | 平成23年3月期第3四半期（実績） | 平成24年3月期第3四半期（実績） | 前第3四半期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 781百万円 | 657百万円 | △15.9% |
| セグメント利益 | 137百万円 | 21百万円 | △84.2% |

不動産事業におきましては、管理不動産物件の入居率も概ね計画通り推移した他、各種テナントリーシングによる効率的な不動産活用などを図ったものの、閉店店舗と関連したテナントリーシング案件の減少の他、震災の影響を被った入居者・テナントからの減額要請等、時限的な収益減に対応せざるを得ない状況となったことにより、売上高657百万円（前年同四半期比△15.9%）、セグメント利益21百万円（同△84.2%）と減収減益となりました。

なお当期間において、自社福利厚生施設を含む一部の不動産の売却を実施しておりますが、昨年度末に減損・評価減をしたものであり、業績への影響は軽微であります。今後も経営合理化策の一環として、これらの減損・評価減を実施した不動産を中心に売却を検討しております

なお、セグメント利益とは、間接部門費等の控除前利益を指しております。

（２）財政状態に関する定性的情報

当第3四半期累計期間末の資産につきましては、前事業年度末に比べて2,802百万円減の21,827百万円となりました。これは主として完成工事未収入金が減少したことによるものです。

負債につきましては、前事業年度末に比べて4,487百万円減の12,550百万円となりました。これは主として工事未払金・長期借入金が減少したことによるものです。

純資産につきましては、前事業年度末に比べて1,685百万円増の9,276百万円となりました。これは主として第三者割当増資による資本金の増加、また四半期純利益の増加による影響であります。

（３）業績予想に関する定性的情報

当期につきましては、新経営体制のもと、聖域なき社内変革と徹底した各種コスト削減・合理化策を推進する中、第3四半期累計期間におきましても、前年を大幅に超えただけでなく、期初予想をも大きく上回る収益を確保することができております。

また、当期推し進めている不採算店舗の閉鎖につきましても、計画した13店舗を閉店しましたが、これらの閉店に伴う各種負担も想定内におさまり、当期への収益影響を抑えた上で、来期の収益への下地も出来たものと確信しております。

残る第4四半期につきましても、この回復基調を留まらせることなく、より一層の経営体質ならびに収益体質の強化に向けて、主力であるアミューズメント施設運営事業では更なる集客施策の向上に向けて、新規顧客層への提案力の強化を図りながら、業務提携先の株式会社ネクストジャパンホールディングスグループとの景品の開発・ノウハウ共有によってプライズジャンルのテコ入れを図り、既存店の収益強化に努めてまいります。また、他事業におきましても部門の垣根を越えた連携のもと、新規案件の獲得と収益性の向上を図るとともに、全社的なコスト削減・合理化策を一層加速させることで、11月にて修正開示致しました売上高予想23,600百万円、営業利益予想1,050百万円、経常利益予想900百万円、当期純利益予想900百万円の達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

また、平成24年1月12日付「アドアーズ株式会社とＫＣカード株式会社の業務提携に関する基本合意締結のお知らせ」のとおり、Ｊトラスト株式会社（大阪証券取引所2部：8508）の子会社、ＫＣカード株式会社との間で、レンタルビジネス及びその付帯事業（主として、、ＤＶＤ、音楽ＣＤのレンタル）についての業務提携に関する基本合意契約を締結しましたが、これは単純なレンタルビジネスでの収益や同社のクレジット会員の獲得のみを目指したものでなく、クレジットカードがもつ購買履歴情報と、「顔が見える」レンタルビジネスならではの顧客情報のマッチングによる新たなプロモーションを活かした、レンタルビジネスに留まらないＢｔｏＣビジネスの開拓をも視野に入れた共同事業であります。

当社単体で考えた場合においても、新規ビジネスのノウハウ蓄積や、未・既存出店地域を問わず新たに店舗展開することによる『アドアーズ』ブランドの向上、更にはＫＣカードが展開する消費の上流から下流までをおさえたＢｔｏＣビジネスの一翼を担うことよって、今までではアプローチができなかった新たな層からの新規顧客の獲得や、既存顧客のニーズをより充足させるサービス戦略にもつながり、主力のアミューズメント施設運営事業への貢献が大きく期待できるものと考えております。

今後も既存事業での確固たる収益体質の構築はもちろんのこと、ソーシャルメディアの取り扱いについての社員啓蒙やＢＣＰ（Business Continuity Plan）の見直しなど、当社の事業継続の根幹たるお客様の信用・安全に向けた守備的な戦略も固めつつ、こうした国内外問わず有力企業とのアライアンスの強化を図り、来るべきビジネスチャンスを取り逃がさない継続的な収益拡大を図れる企業に向けてまい進いたします。

なお、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は今後さまざまな要因によって、予想値と異なる可能性があります。

## ２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算については、当第３四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期当期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## ３．四半期財務諸表

### （１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

| | 前事業年度<br>（平成23年３月31日） | 当第３四半期会計期間<br>（平成23年12月31日） |
|---|---|---|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 3,733,819 | 4,147,814 |
| 受取手形・完成工事未収入金等 | 3,226,620 | 1,583,654 |
| 未成工事支出金 | 123,475 | 1,146 |
| 貯蔵品 | 137,536 | 167,159 |
| 短期貸付金 | 1,325 | 1,109 |
| 前払費用 | 504,405 | 521,246 |
| 繰延税金資産 | 358,958 | 349,338 |
| その他 | 243,024 | 203,938 |
| 貸倒引当金 | △3,340 | △1,754 |
| 流動資産合計 | 8,325,824 | 6,973,652 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 10,543,617 | 9,797,888 |
| 減価償却累計額 | △8,341,612 | △7,780,092 |
| 建物（純額） | 2,202,004 | 2,017,795 |
| アミューズメント施設機器 | 20,893,219 | 18,440,481 |
| 減価償却累計額 | △17,324,708 | △15,170,616 |
| アミューズメント施設機器（純額） | 3,568,510 | 3,269,864 |
| 構築物 | 20,726 | 20,726 |
| 減価償却累計額 | △18,217 | △18,531 |
| 構築物（純額） | 2,509 | 2,194 |
| 車両運搬具 | 1,396 | 1,396 |
| 減価償却累計額 | △1,204 | △1,303 |
| 車両運搬具（純額） | 191 | 93 |
| 貸与資産 | 700,303 | 518,828 |
| 減価償却累計額 | △649,907 | △494,190 |
| 貸与資産(純額) | 50,395 | 24,637 |
| 工具器具・備品 | 761,803 | 722,217 |
| 減価償却累計額 | △667,714 | △650,542 |
| 工具器具・備品（純額） | 94,089 | 71,674 |
| 土地 | 1,308,878 | 1,306,182 |
| リース資産 | 1,748,877 | 957,764 |
| 減価償却累計額 | △1,426,410 | △825,070 |
| リース資産（純額） | 322,466 | 132,694 |
| 建設仮勘定 | 79,337 | 113,155 |
| 有形固定資産合計 | 7,628,383 | 6,938,292 |
| 無形固定資産 | | |
| 借地権 | 293,602 | 293,602 |
| のれん | 268,314 | 222,020 |
| その他 | 60,931 | 43,606 |
| 無形固定資産合計 | 622,848 | 559,229 |

(単位：千円)

| | 前事業年度<br>(平成23年３月31日) | 当第３四半期会計期間<br>(平成23年12月31日) |
|---|---|---|
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 32,261 | 30,491 |
| 関係会社株式 | 156,003 | 49,544 |
| 出資金 | 188 | 163 |
| 敷金及び保証金 | 7,636,542 | 6,819,525 |
| 関係会社出資金 | 56,418 | 56,418 |
| 破産更生債権等 | 125,756 | 121,980 |
| 長期前払費用 | 54,460 | 35,456 |
| 長期受取手形 | － | 206,380 |
| 繰延税金資産 | 53,978 | 95,983 |
| その他 | 127,174 | 126,913 |
| 貸倒引当金 | △190,476 | △186,863 |
| 投資その他の資産合計 | 8,052,306 | 7,355,993 |
| 固定資産合計 | 16,303,539 | 14,853,514 |
| 資産合計 | 24,629,364 | 21,827,167 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形・工事未払金等 | 4,834,215 | 3,701,886 |
| 短期借入金 | 218,500 | 1,067,934 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 4,998,415 | 3,894,555 |
| 未払金 | 298,145 | 320,419 |
| 未払費用 | 221,030 | 130,973 |
| リース債務 | 293,034 | 85,021 |
| 未払法人税等 | － | 48,643 |
| 未払消費税等 | 34,737 | 81,008 |
| 前受金 | 104,053 | 174,857 |
| 未成工事受入金 | 38,587 | 7,297 |
| 預り金 | 14,867 | 31,100 |
| 1年内償還予定の社債 | 633,600 | 592,400 |
| 賞与引当金 | 161,416 | － |
| 資産除去債務 | 241,400 | 112,960 |
| その他 | 7,331 | 5,151 |
| 流動負債合計 | 12,099,334 | 10,254,209 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 412,600 | 217,000 |
| 長期借入金 | 3,912,170 | 1,444,440 |
| 長期預り保証金 | 438,930 | 425,833 |
| リース債務 | 76,139 | 15,849 |
| 資産除去債務 | 98,018 | 192,881 |
| その他 | 285 | － |
| 固定負債合計 | 4,938,144 | 2,296,004 |
| 負債合計 | 17,037,479 | 12,550,213 |

(単位：千円)

| | 前事業年度<br>(平成23年３月31日) | 当第３四半期会計期間<br>(平成23年12月31日) |
|---|---|---|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,000,000 | 4,405,000 |
| 資本剰余金 | 5,855,617 | 4,359,307 |
| 利益剰余金 | △1,901,310 | 938,797 |
| 自己株式 | △426,512 | △426,512 |
| 株主資本合計 | 7,527,795 | 9,276,592 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 64,089 | 361 |
| 評価・換算差額等合計 | 64,089 | 361 |
| 純資産合計 | 7,591,884 | 9,276,953 |
| 負債純資産合計 | 24,629,364 | 21,827,167 |

（２）四半期損益計算書
（第３四半期累計期間）

（単位：千円）

| | 前第３四半期累計期間<br>（自　平成22年４月１日<br>至　平成22年12月31日） | 当第３四半期累計期間<br>（自　平成23年４月１日<br>至　平成23年12月31日） |
|---|---|---|
| 売上高 | 18,843,437 | 17,127,879 |
| 売上原価 | 16,482,139 | 14,541,931 |
| 売上総利益 | 2,361,297 | 2,585,948 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,930,225 | 1,631,727 |
| 営業利益 | 431,071 | 954,221 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,062 | 1,543 |
| 家賃収入 | 19,803 | 10,382 |
| 広告協賛金 | 37,101 | 42,169 |
| その他 | 43,506 | 33,571 |
| 営業外収益合計 | 101,473 | 87,666 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 221,249 | 135,276 |
| 社債発行費 | 4,808 | 5,714 |
| その他 | 23,963 | 20,318 |
| 営業外費用合計 | 250,021 | 161,309 |
| 経常利益 | 282,523 | 880,578 |
| 特別利益 | | |
| 前期損益修正益 | 11,167 | － |
| 受取補償金 | 2,863 | － |
| 固定資産売却益 | 4,809 | 61,952 |
| 賞与引当金戻入額 | － | 160,966 |
| その他 | 777 | 6,947 |
| 特別利益合計 | 19,618 | 229,867 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 29,734 | 7,256 |
| 固定資産除却損 | 3,454 | 3,086 |
| 減損損失 | 66,586 | 103,565 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 50,687 | － |
| その他 | 39,928 | 12,574 |
| 特別損失合計 | 190,390 | 126,482 |
| 税引前四半期純利益 | 111,751 | 983,962 |
| 法人税等 | 36,376 | 45,165 |
| 四半期純利益 | 75,374 | 938,797 |

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）セグメント情報等

Ⅰ　前第３四半期累計期間（自平成22年４月１日 至平成22年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | | | 調整額（注）１ | 四半期損益計算書計上額(注)２ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | アミューズメント施設運営事業 | 設計・施工事業 | レンタル事業 | 不動産事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 14,494,832 | 3,371,894 | 194,933 | 781,777 | 18,843,437 | － | 18,843,437 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | － | － | － | － | － | － | － |
| 計 | 14,494,832 | 3,371,894 | 194,933 | 781,777 | 18,843,437 | － | 18,843,437 |
| セグメント利益 | 529,894 | 266,684 | 33,489 | 137,570 | 967,639 | △536,567 | 431,071 |

（注）１．セグメント利益の調整額△536,567千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△536,567千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | | | 調整額（注）１ | 四半期損益計算書計上額(注)２ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | アミューズメント施設運営事業 | 設計・施工事業 | レンタル事業 | 不動産事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 13,806,760 | 2,636,555 | 26,859 | 657,703 | 17,127,879 | － | 17,127,879 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | － | － | － | － | － | － | － |
| 計 | 13,806,760 | 2,636,555 | 26,859 | 657,703 | 17,127,879 | － | 17,127,879 |
| セグメント利益 | 1,276,418 | 127,770 | 5,287 | 21,761 | 1,431,238 | △477,017 | 954,221 |

（注）１．セグメント利益の調整額△477,017千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△477,017千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第３四半期累計期間（自　平成23年４月１日　至　平成23年12月31日）

１　当社は、平成23年６月28日付で、株式会社ネクストジャパンホールディングスから第三者割当の払込みを受けました。これにより当第３四半期累計期間において資本金が405,000千円、資本準備金が405,000千円増加しております。

２　当社は、平成23年６月27日開催の第44回定時株主総会の決議に基づき、平成23年６月29日をもって下記のとおり資本準備金、利益準備金の減少及び剰余金の処分を行いました。

(1) 会社法第448条第1項の規程に基づき、平成23年３月末日時点の資本準備金を減少させ、その他資本剰余金に振替えました。

①減少した準備金の額

| | |
|---|---|
| 資本準備金 | 1,901,310千円 |

②増加した剰余金の額

| | |
|---|---|
| その他資本剰余金 | 1,901,310千円 |

(2) 会社法第452条の規程に基づき、上記その他資本剰余金、利益準備金及び別途積立金にて繰越利益剰余金の欠損を補填致しました。

①減少した剰余金の額

| | |
|---|---|
| その他資本剰余金 | 1,901,310千円 |
| 利益準備金 | 85,400千円 |
| 別途積立金 | 1,186,143千円 |

②増加した剰余金の額

| | |
|---|---|
| 繰越利益剰余金 | 3,172,854千円 |

これらの結果、当第３四半期累計期間末において資本金が4,405,000千円、資本準備金が4,359,307千円となっております。

（６）重要な後発事象

該当事項はありません。